

OAの現在の景観とグリーンOA

国立情報学研究所
オープンサイエンス基盤研究センター
尾城 孝一

OAの究極の目標

“accelerate research, enrich education, share the learning of the rich with the poor and the poor with the rich, make this literature as useful as it can be, and lay the foundation for uniting humanity in a common intellectual conversation and quest for knowledge.”

「共有された知的会話と知識の探求を行うなかで人類を一体化すること」

Budapest Open Access Initiative. February 14, 2002
<https://www.budapestopenaccessinitiative.org/read>

APCモデルによるOAの推進

OA2020

- ドイツのマックスプランクデジタルライブラリが中心となって進めているイニシャティブ
- 大学図書館やコンソーシアムが出版社に支払っている学術雑誌の購読料をOA出版料に転換することにより、全ての論文を即座にOA出版することをめざす

<https://oa2020.org/>

Plan S

- 欧州の研究助成機関がcOAlition Sを結成
- 完全にして即時のOAを求めて、Plan Sの原則とガイドラインを公表

<https://www.coalition-s.org/coalition-s-publishes-updated-criteria-for-transformative-journals/>

新興国やグローバルサウスの反発

APCモデルによるOAはpaywall（有料購読の壁）をpublication wall（出版の壁）に置き換えるだけだと反発

- ラテンアメリカ諸国は、グローバルサウスに適したOAモデルを広めることをめざしてAmeliCAを組織

<http://amelica.org/index.php/en/home/>

- アフリカや日本（J-STAGE）も巻き込みながら、UNESCOが主導するGLOALLというアライアンスに発展

<https://en.unesco.org/news/launch-global-alliance-open-access-scholarly-communication-platforms-democratize-knowledge>

米国の動き

- カリフォルニア大学などの一部の大学がOA2020に同調しつつ、転換契約を進めようとしているものの、全体としては様子見の傾向
- NIH等の研究助成団体もPlan Sの提案に対しては明確な立場を表明しておらず、従来のグリーンOA路線を踏襲
- 但し、米国大統領府科学技術政策局（OSTP）による即時OA化の検討が進んでいる

中国の動き

- 中国政府は、今のところPlan Sに対しては静観の構え
- 一帯一路政策の柱のひとつにサイエンスを据え、参加国の研究プロジェクトに対する財政支援を強化
- China Academic Journals Full-text Database (CJFD) という巨大な学術論文データベースを構築
- 中国化学会は、CCS ChemistryというダイヤモンドOA誌を創刊

人文系研究者からの反発

「研究助成金と連動させて、APCに基づくゴールドドOAを推進しようというPlan Sモデルは、STEM分野には適切なものかもしれないが、人文科学分野は到底受け入れられない。何故なら、この分野では、助成金によって研究を行うことが一般的ではない。さらに、人文科学分野では、研究者が助成金を獲得する機会が限られているので、グリーンOAや著者以外の機関や団体などが出版費を負担するOAモデルの方が、より適切な選択肢だ。」

Towards a Plan(HS)S: DARIAH's position on PlanS" DARIAH-EU. 2018-10-25.

<https://www.dariah.eu/2018/10/25/towards-a-planhss-dariahs-position-on-plans/>

分裂するOA運動

OA運動の現状は、BOAIが目指した「共有された知的会話と知識の探求を行うなかで人類を一体化すること」という理想の姿には程遠く、国、地域、分野間で分断されている

日本の動き

- 政府や研究助成機関
 - OAについては推進すべしという方向性
 - OA2020やPlan Sに対しては、様子見の段階
- 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）
 - 『購読モデルからOA出版モデルへの転換をめざして～JUSTICEのOA2020ロードマップ～』（2019年3月）
 - 従来の購読契約からOA出版契約への移行を見据えた交渉を開始
- オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）
 - 機関リポジトリを受け皿としたグリーンOAを推進

Bibliodiversity (書誌多様性)

学術出版あるいは学術情報流通における文化的多様性
(言語、基盤、サービス、ビジネスモデル、評価等)

- ジュシュー宣言 (Jussieu Call for Open Science and Bibliodiversity)
(2017年10月)
 - 2017年10月に、BSN (Bibliothèque scientifique numérique / Digital Scientific Library) の研究者と学術出版の専門家によって、パリのジュシュー・キャンパスで起草
 - 学術雑誌の購読料をAPC支払いに独占的に転換することなく、書誌多様性とイノベーションを促す学術出版のオープンアクセスモデルを推進することを目的
 - 100以上の学術機関、学協会、コミュニティが署名
- COARの行動要請 (Fostering Bibliodiversity in Scholarly Communications: A Call for Action!) (2020年4月)
 - 「ジュシュー宣言」の提言に基づき、書誌多様性を実現するために、研究助成機関・学術機関、基盤提供機関、研究者、図書館・コンソーシアム・図書館協会、政策立案者等に向けて、具体的な行動を要請

Fostering Bibliodiversity in Scholarly Communications

A Call for Action!

April 15, 2020



Authors

Kathleen Shearer, COAR - Confederation of Open Access Repositories
Leslie Chan, Centre for Critical Development, University of Toronto Scarborough
Iryna Kuchma, EIFL - Electronic Information for Libraries
Pierre Mounier, EHESS/OpenEdition, OPERAS

Reviewers

Peter Suber, Harvard Library
Jean Claude Guédon, University of Montreal



This paper is licensed under [Creative Commons Attribution 4.0 International](https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/)

学術情報流通における 「書誌多様性」の形成に向けて －行動の呼びかけ－ 2020年4月15日

日本語監訳：河合将志

NIIの機関リポジトリで公開

Shearer, Kathleen, Chan, Leslie, Kuchma, Iryna, & Mounier, Pierre. (2020, April 15).
Fostering Bibliodiversity in Scholarly
Communications: A Call for Action.
Zenodo.

<http://doi.org/10.5281/zenodo.3752923>

<https://doi.org/10.20736/00001276>

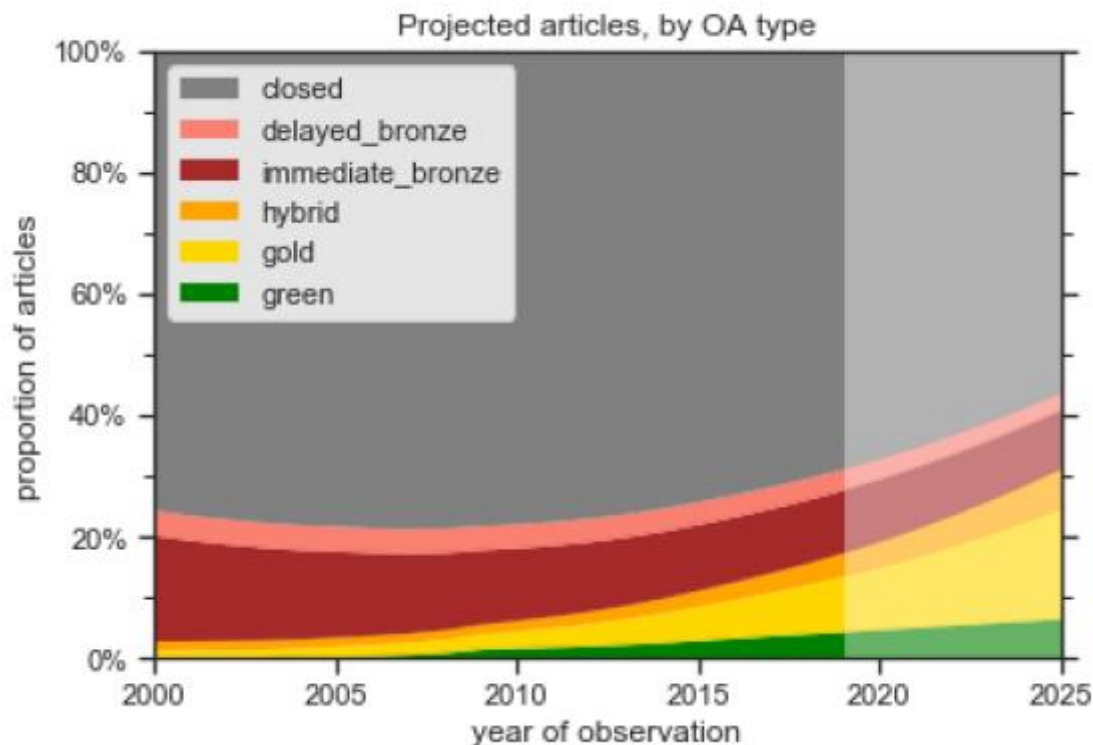
ここまでのまとめ

- 世界のOA運動は分裂している
- One Size Fits AllのOAモデルは存在しない
- Bibliodiversityを保持したOAのエコシステム（生態系）を構築することが重要

機関リポジトリによるグリーンOA

機関リポジトリによるグリーンOAは、Bibliodiversityを保ったOAの生態系を形作る上で不可欠の構成要素

世界のグリーンOA

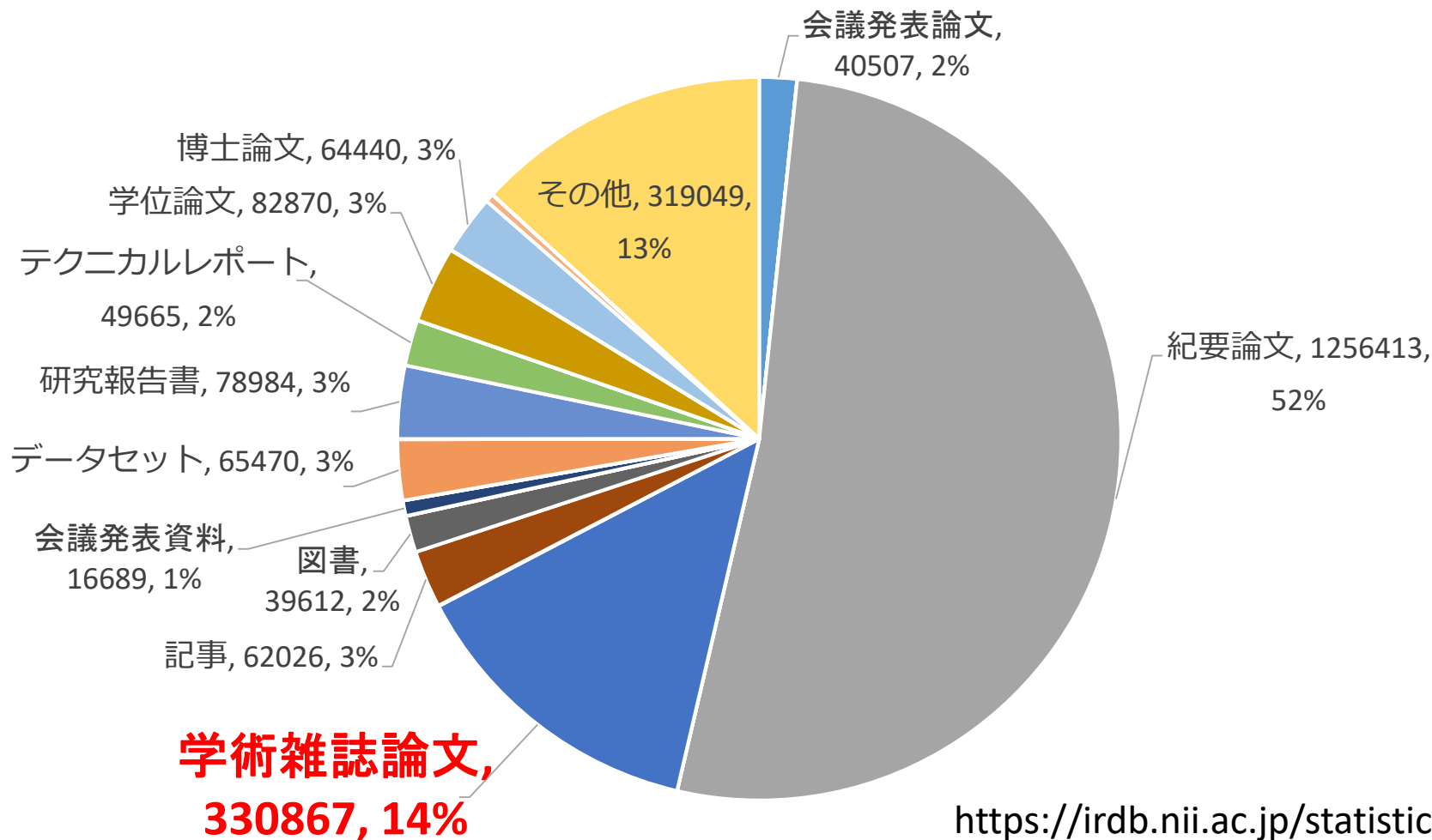


year	green	gold	hybrid	immediate_bronze	delayed_bronze	closed	All OA
2019	4	9	4	10	3	69	31

Piowar, Heather et al. The Future of OA: A large-scale analysis projecting Open Access publication and readership. bioRxiv, 2019, 795310.
<https://doi.org/10.1101/795310>

日本の状況

機関リポジトリ登録コンテンツ（本文あり）の資源タイプ別集計（2020年4月）



参考) 査読済み学術論文の捕捉率の試算

- 2014年に出版された国内研究者による学術論文（Web of Science収録）は、約78,000件
- 日本の機関リポジトリに登録されている、学術雑誌掲載論文（本文あり）のうち、2014年出版の英語論文は、4,813件
（NIIの統計、2016年2月18日現在）
- 捕捉率は、約6%

COAR Next Generation Repository

「次世代リポジトリの機能要件および技術勧告」（2017年11月）

次世代リポジトリのビジョンは、

「リポジトリを、分散型でグローバルにネットワークされた学術コミュニケーションのインフラストラクチャの基礎として位置づけ、その上に付加価値サービスを積み重ね、それにより（商業出版社に支配された）既存のシステムを、より研究中心的で革新的な、学術コミュニティによって共同管理されたシステムに、変えていくこと」

11の機能要件と技術勧告

識別子の公開（Exposing Identifier）

リソースレベルでのライセンスの明示（Declaring Licenses at a Resource Level）

ナビゲーションによる発見（Discovery through Navigation）

リソースとの相互作用（アノテーション、コメント、レビュー）
（Interacting with Resources（Annotation, Commentary and Review））

リソースの転送（Resource Transfer）

バッチディスカバリ（Batch Discovery）

アクティビティの収集・公開（Collecting and Exposing Activities）

ユーザの識別（Identification of Users）

ユーザの認証（Authentication of Users）

標準化された利用状況メトリクスの公開（Exposing Standardized Usage Metrics）

リソースの保存（Preserving Resources）

Pubfair

持続可能で分散型のオープンな出版フレームワーク

●配信レイヤ

- ・コミュニティチャネル（分野コミュニティ向け）
- ・機関チャネル（大学やFA向け）
- ・研究者チャネル（研究者個人向け）

●出版レイヤ

- ・リポジトリレイヤの上位サービスとして、学術出版の主要な機能（投稿、編集ワークフロー、査読と評価、ソーシャルネットワーキング等）を提供する

●リポジトリレイヤ

- ・分散したリポジトリのグローバルネットワーク
- ・プレプリント、データ、ソフトウェア、その他の成果物を蓄積して公開する

JPCOARの取り組み

2018年度 研究者情報連携タスクフォース

- JAIRO Cloudメタデータ自動入力機能検証プロジェクト

2019年度 コンテンツ流通促進作業部会

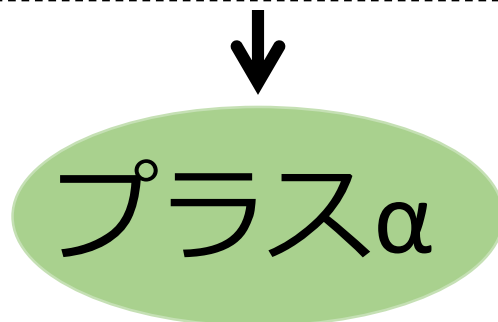
- 調査活動（データ収集・分析、インタビュー）

2020年度 コンテンツ流通促進作業部会

- 調査活動
- グリーンOA促進のためのワークフロー整備

日本の機関リポジトリコミュニティへの期待

- 800以上のリポジトリ
- システム基盤
 - JAIRO Cloud
 - メタデータ流通基盤（JPCOARスキーマ + IRDB）
- コミュニティ
 - JPCOAR（600機関以上）



世界のグリーンOAをリード

<https://rcos.nii.ac.jp/>